

1. 評価結果概要表

作成日 平成22年1月7日

【評価実施概要】

事業所番号	0972700330		
法人名	社会福祉法人二宮会		
事業所名	グループホームさくら		
所在地	栃木県真岡市石島463 (電話) 0285-74-3714		
評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成21年10月26日	評価確定日	平成22年1月7日

【情報提供票より】(平成21年10月12日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成13年4月1日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9人
職員数	7人	常勤6人, 非常勤1人, 常勤換算6.75人	

(2) 建物概要

建物構造	木造		
	1階建ての1階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	19,000円	その他の経費(月額)	・管理費—22,000円 ・おむつ代—1枚(150円・30円・20円)	
敷金	無			
保証金の有無(入居一時金含む)	無	有りの場合償却の有無	—	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,380円			

(4) 利用者の概要(平成21年10月12日現在)

利用者人数	9名	男性	3名	女性	6名	
要介護1		名	要介護2		3名	
要介護3		1名	要介護4		4名	
要介護5		1名	要支援2		名	
年齢	平均	89.4歳	最低	78歳	最高	98歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	真岡病院、小貫歯科医院
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>グループホームさくらは、平成13年4月、特別養護老人ホームと敷地続きに併設して二宮町(当時)内最初のグループホームとして開設された。近くに真岡鉄道が走る田園地帯の高台にある。日中建物の鍵はすべて解放し、入居者と職員が家庭的雰囲気の中で過ごしている。入居者の人権を尊重し、入居者の立場に立って、自立した日常生活が送れるよう支援している。また、家庭との連携、地域との交流を重視した運営を行っている。運営推進会議においてもメンバーが全員参加してくれるなどの協力が得られており、入居者へのサービスの質の向上に向けて関係機関等との密接な連携に努めているホームである。</p>

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>外部評価の結果は職員会議で周知し改善を指示するとともに、運営推進会議においても報告し課題等の検討をしている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価は、スタッフ全員に配り記入してもらい、スタッフで話し合い、最終的に管理者がまとめた。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は、市町合併を契機に今年度からは2ヶ月に1回の開催としている。会議の参加者は、入居者、入居者家族代表、地域包括支援センター職員、民生委員、区長、老人会長、法人事務長、管理者等で構成されており、会議ではホームの運営状況や入居者の生活状況等の報告や情報交換を行っている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族からの要望や苦情については、いつでも受入れる旨を掲示板を用いて説明している他、面会時や家族会等においても家族から要望や苦情を出しやすい雰囲気作りを努めており、出された意見はホームとして受け止め、運営に反映させている。入居者家族への入居者の暮らしぶりや健康状態等の報告は、毎月、個別のお便りの送付や来所時には随時、口頭でも報告している。また、年4回発行の広報誌や年3回開催している家族会なども活用して報告をしている。金銭管理は行っていない。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に加入しており、小学校の運動会、文化祭には毎年参加するなど地域の行事に積極的に参加している。また、地元の日赤奉仕団(紙芝居)の訪問や事業所の夏祭りに子供会からの参加を受入れるなど、地域住民との相互交流に努めている。</p>

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	5項目の法人の理念に加えて、全職員が参加して昨年「健康で自由に入浴したり、好きなものを食べたり、いろいろなところに行き、楽しく生活できるようサポートします」という事業所独自の理念を定めており、理念の実践に向け、入居者の状態に合わせた分かりやすい表現や内容提示に努めている。	○	ホームの入居者に対する姿勢が表れた独自の理念であるが、法人の理念に記載されている地域とのつながりを重視する姿勢を明示した、ホーム独自の理念を更に工夫されることを期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念については、毎日の朝礼で唱和し、全職員で理念の共有を図っている。玄関入口には5項目からなる法人理念を掲示し、事務室には全職員で作ったホーム独自の理念を掲示している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入しており、小学校の運動会、文化祭には毎年参加するなど地域の行事に積極的に参加している。また、地元の日赤奉仕団（紙芝居）の訪問や事業所の夏祭りに子供会からの参加を受入れるなど、地域住民との相互交流に努めている。	○	今後、更に自治会の活動や地域の行事等への参加を図って行きたいとの事から、地域の一員として、地域との交流を促進していくために広報誌やチラシ等を活用して、近隣住民へのホームのPR方法について更に取り組まれる事を期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価結果については、職員会議で周知を行い、改善を指示するとともに、運営推進会議においても報告を行い、課題等については検討をしている。今回の自己評価については、職員全員に配布し、記入したものを職員間で話し合い、最終的に管理者がまとめた。		

グループホームさくら

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、市町合併を契機に今年度からは2ヶ月に1回の開催としている。会議の参加者は、入居者、入居者家族代表、地域包括支援センター職員、民生委員、区長、老人会長、法人事務長、管理者等で構成されており、会議ではホームの運営状況や入居者の生活状況等の報告や情報交換を行っている。	○	運営推進会議の出席率も高く、各委員からのホームへの理解もあり、今後も協力を期待できるものと思われることから、ホームからの一方的な報告に止まらず、協議内容や議題を工夫して参加者からの意見を引き出すことに期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当職員や地域包括支援センターに出向いて、介護保険制度の手続きやホームの入居者についての相談や情報交換等を行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	入居者家族への入居者の暮らしぶりや健康状態等の報告は、毎月、個別のお便りの送付や来所時には随時、口頭でも報告している。また、年4回発行の広報誌や年3回開催している家族会なども活用して報告をしている。金銭管理は行っていない。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの要望や苦情については、いつでも受入れる旨を掲示板を用いて説明している他、面会時や家族会等においても家族から要望や苦情を出しやすい雰囲気作りに努めており、出された意見はホームとして受け止め、運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は、法人の併施設設間で行われているが、異動にあたっては、入居者、家族へ早めの連絡や十分な説明を行う他、職員間でも引継ぎを行い情報の共有に努めている。また、法人の施設間での交流の際に、異動した職員と入居者が交流の機会を持てるように努めている。		

グループホームさくら

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の研修については、社会福祉主事資格講座受講等に順番で申込みなど、職員の経験や能力に応じて能力開発や研修の機会を与えている。また、事故防止、感染症対策等について、法人全体の内部研修を夜勤者等を除き全職員参加のもとで行っている。ホームでの内部研修も毎月の職員会議を利用し、テーマを決めて勉強会を行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人の併設施設とは、合同行事や交流会により連携を図っている。外部の同業施設とは、市その他が実施する研修会等に出来るだけ参加して交流を図れるよう努めている。また、入居予定者の面接で他施設へ訪問した際には、施設見学や情報交換を行っている。	○	地域における同業者間のネットワーク構築が出来ていないことから、市担当職員へネットワーク構築にむけた協力依頼を行うなど、徐々に近隣同業者との交流の機会を増やし、相互訪問や情報交換等とおして、更にホームの質の向上に向けた取り組みに期待したい。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居にあたっては、本人、家族にホームの見学をしてもらい、十分な情報提供を行い、不安や混乱が生じないよう配慮したうえでサービスの開始につなげている。見学は、家族も一緒にお茶を飲みながら1時間程度経過してもらい、場の雰囲気を感じてもらおうようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	野菜畑や花壇で季節の野菜や花等を入居者と職員で共に育てたり、新聞の切り抜きを共に楽しんだり、入居者がかりんシロップの飲み方を職員に教えてくれたり、昔ながらの経験を話してくれたりと共に過ごし支えあう関係を持っている。		

グループホームさくら

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	さりげない日々の会話や表情から入居者一人ひとりの希望や意向の把握に努めている他、家族にも入居者の生活歴等を確認し、参考にしている。意思疎通の困難な入居者には、なじみの関係から寄り添って伝えあったり、様々な方法で感情を引き出すことに努め、意向を汲み取り、一人ひとりの希望するペースでの暮らし方に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者や家族の意見や希望を踏まえて、3ヶ月に1回又は毎月のケース会議で検討を行い、それぞれの入居者の状態に合わせた介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3か月毎に見直しを行っている。また、毎月ケース会議でのモニタリングの実施により、入居者の状態に大きな変化が生じた場合等は随時見直しを行っている。介護計画の見直し時には、家族の面会時や毎月の手紙を利用して報告を行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設施設の特別養護老人ホームと協力しながら行政手続代行、個別の緊急対応、相談援助等を行っている。		

グループホームさくら


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の了解や意向を聞いたうえで、協力病院等と連携を図りながら、適切な医療が受けられるよう支援している。また、週2回併設の特別養護老人ホームに協力病院の医師の往診があるので、当ホームにおいても活用している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	今まで看取りの例はないが、重度化した場合や終末期のあり方について、本人や家族と話し合いを行い、意向を聞いたうえで、医師に相談しながら職員全員で方針の検討をしている。	○	ホームとしては本人、家族の意向に沿えるように、早い段階で家族等との話し合いができるようにしている。重度化や終末期に向けたホームの方針を本人や家族並びに医師との話し合いの中で明確化し、文書化等も含めて更に検討を重ねていくことに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	入居者の自尊心を大切に支援を行い、プライバシーに関わることは個別に対応を行う他、言葉づかいについても十分に気遣いを行っている。個人の記録等は事務室に保管し外部から見えないようにしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな一日の流れはあるが、本人のペースにあわせ、さりげない支援を行っている。午後は、可能な人には散歩の支援をしたりと個別的な対応が行われている。一人ひとりの心身の状況に合わせ、より良い暮らしが出来るよう支援している。		

グループホームさくら

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	併設施設の管理栄養士による献立の作成とメニューと同じ食材を届けてもらい、ホームにおいて調理を行っている。野菜の皮むきなど出来ることは入居者と一緒に行い、食事作りをしている。職員も入居者と食卓を共にしており、会話を楽しみながらさりげなく入居者のサポートを行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日を決めて午後1時30分から4時くらいの時間帯で入浴しているが、それ以外の曜日や時間帯でも本人の健康状態が良ければ対応している。一人ひとりの希望や状態にあわせて湯の温度の調節やシャワー浴等の支援を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	編み物、折紙、新聞の切抜き、絵（クレヨン画）等の楽しみごとの他、食事の準備時にじゃがいもの皮むきや大根の皮引きをするなど、入居者個々の趣味や能力に合わせて楽しみごとや役割を持ち、気晴らしも出来るよう支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日には近所への散歩を行っている。年3回、入居者の体調を考慮しながら家族にも声をかけてドライブを兼ねた外出に出掛けている。夏は戸外でバーベキュー、冬は室内で鍋パーティーを楽しんでいる。入居者個々が家族と共に外出することもある。	○	入居者にとって外出は気分転換や健康維持にも大切なことであり、日常行っている散歩はこれからも継続していただき、入居者の重度化・高齢化により、難しくなる面もあると思われるが、職員も外出支援の必要性を理解していることから、入居者の希望に沿ったさらなる外出支援の検討を期待したい。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関、居室、その他出入口等すべての鍵は掛けていない。夜間時は、防犯のため施錠している。入居者の安全については、職員がさりげない見守りで対応している。		

グループホームさくら

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎年1回、調理室を火元として、職員で自主避難訓練を実施している。また、併設施設の特別養護老人ホームと一緒に消防署の協力の下、避難訓練・消火訓練を実施している。	○	夜間時を想定した避難訓練も考慮のうえ、年2回程度の実施の検討を期待したい。運営推進会議の議題として協議、検討を行うことで自治会等の地域住民からの協力体制の構築にも期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は併設施設の管理栄養士の作成した献立に基づいたものであるが、食事の摂取状況や水分摂取量等のチェックを行い、一人ひとりの健康状態をみながら食事量や栄養バランス、カロリー確保の支援を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間等には、入居者と職員が共に作った折り紙等を飾ったり、木製の家具等を置いて家庭にしているような明るく落ち着いた雰囲気が出るよう配慮している。トイレや浴室も清掃が行き届いており、清潔で臭いもなく、明るく静かな共用空間を作っている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使い慣れた物を持ち込めるよう家族にも働きかけを行い、入居者一人ひとりが居心地の良い居住環境となるよう支援している。また、季節に応じた物も家族と共に相談しながら持ち込めるよう工夫している。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。